

平成24年度学校表彰 「泉が丘賞」9名他

「泉が丘賞」(9名)

「泉ヶ丘賞」は九州大会以上に出場し、本校の活性化に寄与した生徒、また教育委員会や文部科学省が主催または後援する各種大会や研究発表会等において、入賞等の顕著な功績があった生徒、また特別活動やボランティア活動等において顕著な功績があった生徒に贈られます。

井上 紗矢香(上陽中出身)<空手道部 全国大会出場>

毎日部活に励むことができたのは、指導・サポートをしてくださった先生方や、一緒に稽古をしてきた部員、家族のおかげです。ありがとうございました。

重野 遥(広川中出身)<剣道部 九州大会出場>

この度このような素晴らしい賞を頂くことができたのは、顧問の畑江先生のご指導と、家族の支えがあったことです。これからは人のために動くことのできる人間になれるよう、様々なことに挑戦し、精進していきたいと思っています。

内藤 晃大(瀬高中出身)<剣道部 九州大会出場>

私は顧問の先生や、剣道部の部員の皆の支えがあったので九州大会に出場することができたと思っています。これからは、支えてくださった方々に恩返しするつもりで剣道を続けていきたいと思っています。

中尾 勇希(羽犬塚中出身)<漫才>パンジージャンプ

僕は漫才で学校に十分貢献できたと思っています。学校の協力のおかげで、結果を残すことができました。全国準優勝の他に賞をとることができて嬉しいです。将来このことを励みとして、芸人の世界で活躍できるように頑張ります。

井上 勝貴(西中出身)<生徒会総務>

この度私のような者が泉が丘賞をいただき、嬉しく思っています。私は生徒会総務ということで頂くのですが、今まで私が頑張ってきたのは生徒や先生方の支えがあったためです。本当にありがとうございました。

今村 亜美(星野中出身)<水泳部 九州大会出場>

伝統ある八女高校で私が3年間好成績を残すことができたのは、毎日よい環境で練習できたおかげです。すてきな先生、コーチ、仲間、家族に心から感謝します。

堤 信敬(黒木中出身)<陸上競技部 九州大会出場>

周囲の先生方や家族、友人たちの支えがあったから、受賞させていただいたと思います。後輩たちには、自分の果たせなかったインターハイ出場を目指し、頑張ってもらいたいです。

中村龍之右(福島中出身)<応援団団長>

代表として賞をいただきましたが、他にも学校に貢献している人はたくさんいます。後輩には賞を頂けるか否かではなく、より良い学校にするために学校生活を送ってもらいたいです。

橋本 祥平(羽犬塚中出身)<漫才>パンジージャンプ

私がこのような結果を残すことができたのは、長い間堪え忍んだことと、周りの人のサポートだと思います。後輩たちには、堪え忍ぶことを身につけてもらいたいです。ありがとうございました。

いずれも無遅刻・無欠席・無早退・無欠課の生徒に贈られます。

「3年間皆勤賞」(78名)・「1年間皆勤賞」(75名)
<代表者コメント> 末法 佳奈(羽犬塚中出身)

「3年間皆勤賞」を頂いたことを心から嬉しく思います。朝まだ暗いうちに登校し、授業、部活動に励み、日が落ちて真っ暗な道を帰った日々がとても懐かしいです。そんな毎日に私の八女高校での思い出が沢山詰まっています。

<シリーズ「コシヒカリ」名付け親 國武 正彦氏>



昭和62年 新潟日報文化賞(コシヒカリ)
平成10年 たけし万物創生(出演)コシヒカリ誕生秘話
平成13年 NHKプロジェクトX(出演)

★プロフィール

昭和19年3月 中32回卒業
昭和23年6月 農林省九州農業試験場
昭和27年11月 新潟県農業試験場
昭和31年4月 稲作係長(46年県稲作係長) 47年農試作物科長
昭和55年4月 農業試験場長
昭和58年3月 退職

昭和31年に、いもち病に弱く倒伏し易い越南17号を、越の国に光り輝く稲を将来展望しながら選定した。本省筋では、N県の頑固なS場長と戦略化K室長が、食味特性に眼を付け虚弱品種を選び、日本の水稲品種育成選定の篩を180度ひっくりかえした、と評した。32年には、私が、コシヒカリの銘柄化による新潟米戦略化を主張した時、委員らは食米法無視の暴挙、と批判した。松尾孝嶺委員(当時東大教授、八女中17回会友)だけが、新潟の國武が正しいと言われた。

32、33年に、苗代播種機と下層施肥機を開発、その目盛り調節により、手先未熟でもコシヒカリが作れる技術を作った。これは若い農家を元気づけコシヒカリ普及の原動力となった。

44、45年には自主流通米制度、米生産調整、機械田植収穫・人工乾燥が始まり、県下が混乱した。私は県農林部稲作係長となり新潟米生産流通の舵取りを命じられた。47年に農業試験場作物係長となった。私は北陸4県共同の、変動気象下の機械化良質米生産技術研究を企画し主査をつとめた。23名の研究者の意欲は高く、9ヶ年で目的を達成できた。

53年には待望の銘柄米品種格差金制度が発足した。新潟の産地銘柄コシヒカリは最高値を継続し、農家の意欲が高まり技術は向上、作付率は県下の8割を占めて市場価値が向上した。命名由来の、越の国に光輝く稲「コシヒカリ」となったのである。

コシヒカリの翌年に選定した酒米五百万石も新潟淡麗酒の生みの親となり、新潟は地酒日本一となった。私は今も県酒造組合の原料米委員会技術顧問をしている。

一つことを長く続け発展させるには、良い仲間をつくり、長期の見通しを正しくし、日々新たに活性化することが大切である。それには、己を空しくして判断を誤らず、笑みを絶やさないことが大切である。

OB紹介(第6回)>



南極海洋環境生態学者・農学博士
ながのぶ みきお
永延 幹男氏

独立行政法人水産総合研究センター
国際水産資源研究所勤務

著作:「南極海ー極限の海からー」(集英社新書)
「融然の探検ーフィールドサイエンスの思潮と可能性ー」(編著・清水弘文堂書房)
「南極海ー氷の海の生態系」(編著・東海大学出版会) 他

★プロフィール

昭和44年3月 高21回卒業
昭和50年3月 東京水産大学(現東京海洋大学)卒業
昭和58年3月 東京大学大学院農学系研究科博士課程修了

永延博士は、羽犬塚中学校卒業式の後、清水山の大観峰に登り、筑後平野を流れる矢部川が注ぐ有明海の輝きを観て、広々とした気持ちになられ、「あの海の向こうはどうなっているのだろうか?」と素朴に感じられた。いま振り返ると、この情念がずっと活き人生の羅針盤として深く影響しているといわれる。

八女高校時代は、受験勉強に馴染めず、山岳部の活動に情熱を燃やし九州の山々を登り巡られ、「自然への想い」を深められた。さらに地球自然への強い探検(検)心を懷かれ、葛藤の末「受験は必要手段」として受け入れ、東京水産大学へ進学された。

大学時代は、丸一年をかけた地球一周を含む数多くの世界探検旅行をされた。この時、高校山岳部の体験が活きた。

南米アマゾンのジャングルで野宿されていたときに、自己の身心と地球自然とが融け合った不思議な感性的体験をされた。「この感性的体験を論理的に捉えたい。しかも地球自然を丸ごと味わいながら」という観点から、東京大学大学院へ進学され、南極海研究を推進された。数多くの南極海調査研究・国際科学委員会などを通じ、世界的な南極海洋学者として活躍され、最先端の地球南極環境変動問題を含む、啓蒙的な著作も多く出版されています。

永延博士より八女高生へのメッセージとして、「ヒト社会からのみ自然を見るのではなく、自然そのものからヒト社会をも観よ。」との自然からの視点の大切さを示していただきました。

南極海の卓状氷山。
南極大陸から棚氷を経て上へ分離。(撮影・永延)



八女高校だより

平成24年度
第3号

<平成25年2月28日発行>
福岡県立八女高等学校

校長 大坪 秀美
編集 企画広報課

【本号の内容】
祝卒業65回生

・学校表彰 ・OB紹介

・65回生進路状況

・スキー研修 ・寒稽古

・部活動報告・立志源泉録

速報! 65回生進路状況

(2月14日現在)

《国公立大学: 推薦・AO》計10名

九州大学	1名	佐賀大学	2名
長崎大学	1名	(医学部医学科)	1名
鹿児島大学	1名	福岡女子大学	1名
福岡県立大学	1名	北九州市立大学	2名

《準大学: 防衛大学校》計9名

防衛大学校	(一次合格)	(最終合格)
人文・社会科学専攻	6名	2名
理工学専攻	17名	7名

《私立大学: 推薦・AO》計33名

中央大学	法学部	1名
立命館大学	スポーツ健康学部	1名
西南学院大学	法学部	2名
福岡大学	法学部	1名
中村学園大学	教育学部	3名
	栄養科学部	1名
	他	13校

《短期大学》計16名

大分県立芸術文化短期大学 他8校

《専門学校》計34名

九州医療センター附属福岡看護助産学校1名
他25校

《公務員(最終合格)》のべ23名

国家一般	1名	広川市職	1名
福岡県職	1名	東京消防庁	1名
佐賀県職	1名	北九州市消防	1名
福岡市職	1名	福岡市消防	5名
飯塚市職	1名	八女地区消防	1名
筑後市職	1名	福岡県警	1名
八女市職	1名	熊本県警	1名
みやま市職	1名		

《自衛隊関係》

一般曹候補生 4名

公務員大躍進!

3学期八女高生の果敢な挑戦!

第1学年寒稽古

平成25年1月29日（火）～2月1日（金）

第1学年の寒稽古において、男子は剣道と柔道に分かれ、女子はランニング、なわとび等を行いました。最終日は寒稽古終了後に保護者に豚汁やおにぎりをふるまっていただきました。これは保護者が前日から準備をされていたものです。生徒たちは、ほくほく顔で朝食をおいしくいただきました。

四日間の寒稽古

一年四組

見崎中出身
浦口 桃香

私は寒稽古が始まる前、学校の行事だからただ参加するという気持ちでした。そして寒稽古一日目も早朝の寒さや眠さで、布団から出るのにも時間がかりました。しかし、この四日間の寒稽古で私の普段の生活が少しづつ変わっていききました。いつもは、寝る時間等全く決めていませんでしたが、寒稽古期間中は必ず十一時には寝ると決めて、それまでに宿題や翌日の準備などを済ませるようにしました。そうすると、朝の時間に余裕が出来て、バタバタ家を出ることがなくなりました。学校から帰って寝るまでの今までの生活に無駄な時間が多いことに気づきました。これからも、その無駄をなくしていきたいと思っています。

毎朝早くからの運動はともきつかったのですが、自分だけじゃなく、皆もきついなと思うと、もっと頑張ろうという気持ちになりました。以前は嫌なことにはすぐにくじけてしまっていたのですが、今回の寒稽古でその自分の弱い部分に勝つことができました。これから何事も諦めず、挑戦していきたいと思っています。

この四日間、母は毎日私より早く起きて、お弁当を作ってくれていました。お弁当があるのは、母が毎朝私たちのために早起きをしてくれているからなんだというのを知り、感謝の気持ちを忘れないようにしようと思いました。四日間の寒稽古を終えた後の朝ご飯は本当においしかったです。とても良い経験になりました。



爽やかな空気の中の早朝ランニング



礼に始まり、礼に終わる柔道の稽古



心も引き締まる剣道の気合い



保護者にいただいたおいしい朝ご飯

第2学年スキー研修

平成25年1月18日（金）～21日（月）

北海道札幌テイネスキー場で3泊4日のスキー研修を行いました。初めて見る一面の雪景色、さらさらと舞うパウダースノーの感触など、本当に忘れられない思い出を作ることができました。そしてもちろんスキーの技術を身につけるとともに、かけがえのない友との絆を深めて帰って来ました。

心に残るスキー研修

二年五組

小鶴 碧
広川中出身

ただ楽しかったの一言に尽きるスキー研修だった。スキーも飛行機も初体験で、研修当日を迎えるまでは、楽しさ半分、不安半分で過ごしてきた。でもその不安は杞憂だった。しおりに書いてあった、校長先生の巻頭言の通り、インストラクターの先生方の指導に素直に従えば、自然と滑れるようになったし、心からスキーを楽しむことができた。

まず北海道に来て驚いたのは、雪の多さだ。バスの車内から街を見ると、道路脇に雪山が積んであるのだから、その高さが人が容易に隠れるくらい高かった。福岡では絶対にありえないことだし、添乗員の方が、0度が温かい方と言われていたのには、一番驚いた。私たちににとってはいつもと違うことが、北海道の人にとっては普通なのかと思うと、不思議に感じた。

初めてのスキーも、一度転んだら、なかなか起き上がることが出来なくて大変だったけれど、いろいろな意味で良い経験になった。

三泊四日という非常に短い期間だったが、それ以上に濃密な体験が出来た旅行だった。また機会があったら、北海道に行つてスキーをしたいと思った。



三日間のスキー研修寒い中心身鍛え深まる絆
二年二組 吉開菜々子（東山中出身）



銀世界何度も転ぶが達成感輝いているみんなの笑顔
二年一組 牛島美咲（福島中出身）

北海道豊かな自然に囲まれてチャレンジ精神大きく成長
二年一組 中島みのり（羽犬塚中出身）

部活動報告

（敬称略）

祝！自然科学部生物班 九州大会出場

平成24年度九州高等学校生徒理科研究発表会（於長崎県島原市）

小屋松祐弥（1年 広川中出身）	下川 雄志（1年 筑後中出身）
堤 悠一郎（1年 筑後中出身）	北島 廣野（1年 筑後中出身）
熊谷 亮汰（1年 南中出身）	杉本 聖也（1年 福島中出身）
野口 里菜（2年 筑後北中出身）	馬場 育美（2年 筑後中出身）
藤原 映見（2年 西中出身）	宮辺 菜都（2年 筑後中出身）



2月10日（日）に行われた九州大会には生物分野に福岡から2校、全九州から17校が出場しました。本校は、「矢部川水系の自然2012」というテーマで研究・発表し、優良賞をいただきました。

◎放送部

第27回福岡県高文祭放送コンテスト福岡県大会
放送文化部門 入選 橋本 理沙（2年 見崎中出身）



◎剣道部

平成24年度福岡県剣道新人大会予選南部ブロック大会
○男子団体 優勝
○男子個人 優勝 楠 充功（2年 黒木中出身）



◎福岡県高等学校学校保健会

優秀賞 楠 章吾（1年 黒木中出身）
優秀賞 佐藤 公彦（1年 黒木中出身）

◎平成24年度交通安全標語

最優秀賞 大石 葉月（3年 八女学院中出身）
優秀賞 川口 大希（1年 南中出身）
優秀賞 村山 健太（1年 筑南中出身）
優秀賞 井手 理央那（2年 見崎中出身）
優秀賞 平島 沙希（3年 羽犬塚中出身）

県大会出場

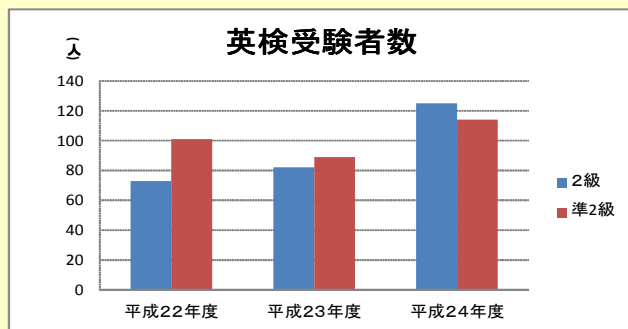
剣道部、サッカー部、弓道部、バドミントン部、バスケットボール部、吹奏楽部、書道部、放送部

心にも
しっかり締めよう
安全ベルト

大石 葉月

英検への挑戦！

本校では実用英語技能検定に果敢に取り組んでいます。下は昨今の年間のべ受験者数です。特に2級にチャレンジする生徒数が急増しています。



過去3回（2011年第3回～2012年第2回）では、本校生徒は2級の2次試験において100%の合格率です。準2級も同期間の平均合格率は95.2%です。本校では、在学中の2級取得を目指して、さらに積極的に英検に取り組んでいます。

立志源泉録（りっしげんせんろく） シリーズ第3回

このコーナーでは10回シリーズで八女高出身の偉人にスポットを当て、お一人ずつ紹介しています。タイトルの立志源泉録とは、本校百周年記念誌の表題よりとったものです。第3回目は松尾孝嶺氏です。

松尾 孝嶺氏（中学17回卒）明治45年年八女郡笠原村（現黒木町）生



八女中から熊本第五高等学校に入学するまで首席で通す。昭和6年、東京帝国大学農学部入学、9年卒業。農林省農事試験場に入ったのをきっかけに、稲の研究がライフワークとなる。昭和26年、東京大学農学部教授32年、ロックフェラー財団の援助でアメリカ留学、その後、東南アジアやヨーロッパ各地を巡る。昭和47年東京大学を定年退官後、玉川大学教授。60年、勲二等瑞宝章を受ける。その間、日本学術会員、日本育種学会長、日本農学会長等の要職をつとめる。「稲学大成」ほか稲に関する著書や論文多数。東大名誉教授を務められた。平成24年7月に亡くなられた。